



学校だより

8・9月号 No.5

平成27年8月25日

上尾市立原市小学校

発行：校長 齋藤 直樹

上尾市原市3508-1

TEL 721-1536

原小っ子

※原小ホームページもご覧ください。（上尾市サイトから）

落ち着いて 本を読む子ら 雲の峰

校長 齋藤 直樹

日々通う

あたりまえのことのようですが、毎日学校に通う。これが本校の教育目標「たくましく生きぬく力」のおおもとになります。学校では、自分と違う考えの人たちと日々、同じ部屋で暮らしています。それだけでも未来に世界の様々な考えの人と一緒に暮らす「たくましさ」をつくることになります。さらに、気候変動や社会状況の変化に対応しなければなりません。学校に日々通うことは、たくましく生きぬいていくために必須です。毎日、登校する子供たちの顔を見る度に「よかった。今日も元気で学校に登校できたね。がんばっているね。」と思います。そんな時、元気よくあいさつしてくれる子、笑顔であいさつしてくれる子、ちょっと恥ずかしそうだけれど会釈してくれる子、どの子も「また、明日も明後日も元気で通ってくるんだよ」と言う気持ちであいさつを返します。子供は社会の宝です。日々元気に学校に通ってこれるのが何よりも大事なことです。そのために、2学期も職員一同精一杯努力しますので、よろしく願います。



日々えんぴつを削って書く

子供たちの筆箱の中身は最低限のものにできていますか。日々教室をめぐると筆箱がふくらんでいるけれど、もっているえんぴつは削っていない、という児童が多いことに気がつきます。毎日学校に来るために、毎日えんぴつを削る必要があります。本校では毎日ノートに書く量が多くなるような授業をしています。それは、手を動かすことによって脳の働きを良くし、学習効果を高めるためです。えんぴつは毎日、毎時間使うので、どんどん先が丸くなります。一番大事な勉強道具はノートとえんぴつです。その準備を家庭で毎日の生活習慣としてしっかりできることがとても大切です。ともするとゲームやネットを見ることが最優先になってしまいませんか？社会の中でたくましく生きぬいて成功しているといわれる人たちは必ず、あたり前のことあたりまえとして自分に課すルーティーンをもっているといわれます。一日の中で次の日の準備をする生活習慣をしっかりともてる児童になって欲しいと願っています。



日々読む

長い文を読むために脳は、先に読み取った言葉を瞬間記憶し、順次、把握した内容を短期記憶していきます（ワーキングメモリーを使う）。いくつかの文がつながった文章を読んでいく過程で、論理を司る脳や感情を司る脳が働き始め、過去の知識や体験に照らし合わせて、自分なりの文章の理解が行われることになります。読書は、左脳（言語脳・論理脳）を使っているだけでなく情景（イメージ）を脳裏に思い浮かべながら読みますから、右脳をも同時に使うことになります。読書は受け身ととられがちですが右脳も使っているわけです。また、読書は、本のジャンルやレベルに関係なく、視覚中枢、左脳、右脳、海馬、扁桃体、大脳皮質、前頭葉など、大脳各部を総動員して行う作業です。読書こそは最高の脳トレといわれています。

本校では1学期図書室の貸出冊数は30000冊をこえました。一人当たり50冊読んだことになります。学校の図書室だけでなく、公民館の図書室で本を借りる児童も増えています。日々読書の原小っ子になってほしいと願っています。